

歴代誌第二6-9章「繁栄する礼拝の国」

1A 神殿奉献 6-7

1B 祈り 6

1C 民への祝福 1-11

2C 罪の赦しの願い 12-42

2B 祈りの答え 7

1C 祝い 1-10

2C 語りかけ 11-22

2A 国の統治 8-9

1B 内政 8

2B 王たちの謁見 9

1C シエバの女王 1-12

2C 富と知恵 13-31

歴代誌第二6章を開いてください。私たちは6章から9章まで、ソロモンの治世の後半部分を今日は読みます。前回の学びは、彼がいかに神殿を建てたのか、父ダビデから受け継がれた神に与えられた大きな事業に果敢に取り組む姿を見ました。そして今は、それを完成して神殿を奉献するところを読みます。さらに奉献後に、主がソロモンに与えられた知恵と富を眺めます。

1A 神殿奉献 6-7

1B 祈り 6

1C 民への祝福 1-11

6:1 そのとき、ソロモンは言った。「主は、暗やみの中に住む、と仰せられました。6:2 そこでこの私があなたのお治めになる宮を立てました。あなたがとこしえにお住みになる所を。」

完成した神殿に、神の箱をダビデの町から移動して至聖所に運びました。そして、ギブオンにあるモーセの幕屋から聖なる祭具も移してきました。今、主ご自身がイスラエルに住まわれる、主が選ばれた場所はここエルサレムの神殿であります。レビ人が一つ心になって神を賛美しました。すると、栄光の雲が宮に満ちたのです。その雲によって、宮は暗くなりました。そしてソロモンが言いました。「主は、暗やみの中に住む、と仰せられました。」

どこで主は、ご自分が暗やみの中に住むと仰せになったのでしょうか？詩篇 18 章 11 節に、「主はやみを隠れ家として、回りに置かれた。その仮庵は雨雲の暗やみ、濃い雲。」とあります。ダビデが、サウルの手から救われた日に、この歌をうたったとされます。ダビデが彼を殺そうとするサウルから逃げることはできましたが、それは過去に、紅海を渡るイスラエルの民を追いかけるエジプトの進軍を妨げるために、雲の柱が真っ黒な雲となって、夜を迷い込ませました(出エジプト 14:20)。それと同じように、夜の中に主がおられてご自分の民を救われるのです。

6:3 それから王は振り向いて、イスラエルの全集団を祝福した。イスラエルの全集団は起立していた。
6:4 彼は言った。「イスラエルの神、主はほむべきかな。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて言われた。6:5 『わたしの民を、エジプトの地から連れ出した日からこのかた、わたしはわたしの名を置く宮を建てるために、イスラエルの全部族のうちどの町をも選ばず、また、わたしの民イスラエルの上に立つ君主とするためにどんな人も選ばず、6:6 ただ、エルサレムを選んでそこにわたしの名を置き、ダビデを選んでわたしの民イスラエルの上に立てた。』

今は、神の民の歴史にとって、驚くべき分岐点です。イスラエルがエジプトから出てきて、そして彼らが目的としていたのは、神の御名が置かれる宮が建てられること、そして主を礼拝して、安らかに暮らすことでした。ヨシュアが約束の地に入り、約束の地に入っただけでなく、ここに君主を立てて、エルサレムをご自分の都にされたのは、ダビデの時でした。ああ、私たちはこの方を待っています。ダビデの子キリストが宮に住まわれます。そしてエルサレムから国々を支配されます。神の国の到来です。

6:7 それで、私の父ダビデは、イスラエルの神、主の名のために宮を建てることを、いつも心がけていた。6:8 ところが、主は、私の父ダビデにこう仰せられた。『あなたは、わたしの名のために宮を建てることを心がけていたために、よくやった。あなたは確かに、そう心がけていた。6:9 しかし、あなたがその宮を建ててはならない。あなたの腰から出るあなたの子どもが、わたしの名のためにその宮を建てる。』6:10 主は、お告げになった約束を果たされたので、私は父ダビデに代わって立ち、主の約束どおりイスラエルの王座に着いた。そして、イスラエルの神、主の名のために、この宮を建て、6:11 主がイスラエル人と結ばれた主の契約が納められている箱をそこに置いた。」

ダビデは、王でありながら、主を礼拝することが最高の望みとして抱いていました。キリスト者が世における仕事を持ちながら、なおいつでも主をあがめたいという強烈な願いを持っているのでしょうか。ダビデは多才な人でありながら、とにかく主の家に住まうこと、命の限り、主の麗しさを見て、眺めることを願っていました。だから、宮も建てたいと思ったのです。ところが、主は、彼から出てくる子がそれを行うのだ、と告げました。それもまた、キリストを表していました。父なる神ではなく、御子が宮を建てられるのです。そして御子が神の国を治められるのです。

そしてソロモンは、4 節で、「御口をもって私の父ダビデに語り」と言い、また、10 節で、「お告げになった約束を果たされた」と言っています。主は、ご自分が語られたことを、必ず実現される真実な方です。同じように、かつてヨシュアが、カナン地に入るという約束を主が果たされたことをこう言っています。「見よ。きょう、私は世のすべての人の行く道を行こうとしている。あなたがたは、心を尽くし、精神を尽くして知らなければならない。あなたがたの神、主が、あなたがたについて約束したすべての良いことが一つもたがわなかったことを。それは、一つもたがわず、みな、あなたがたのために実現した。(ヨシュア 23:14)」約束した良いことが、一つも違わなかった、みな実現したと言っています。

いかがでしょうか、私たちに対する神の約束があります。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

(ピリピ 1:6)「良い働きを始められたのですから、それを完成してください。「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。(エペソ 2:10)」神の作品として、神はご自分の働きを私たちの内で、また私たちを通して行ってくださいます。

2C 罪の赦しの願い 12-42

6:12 彼はイスラエルの全集団の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を差し伸べた。6:13 ソロモンは、長さ五キュビト、幅五キュビト、高さ三キュビトの青銅の足台を作って、これを庭の中央に据えておいたが、その上に立って、イスラエルの全集団の前でひざまずき、両手を天に差し伸べて、6:14 言った。「イスラエルの神、主。天にも地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と愛とを守られる方です。6:15 あなたは、約束されたことを、あなたのしもべ、私の父ダビデのために守られました。それゆえ、あなたは御口をもって語られました。また御手をもって、これを今日のように、成し遂げられました。6:16 今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束して、『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの律法に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に着く者が、わたしの前から、絶えることはない。』と仰せられたことを、ダビデのために守ってください。6:17 今、イスラエルの神、主よ。あなたのしもべダビデに約束されたみことばが堅く立てられますように。

ソロモンが祈りを捧げています。6章の最後まで続く長い祈りですが、同じように長い祈りをしているのがネヘミヤ記9章です。ソロモンは、イスラエルの民がいの祈りを聞いてください、そして罪を赦してください、と祈ります。ネヘミヤ記でも、自分たちが犯した罪を悔いている祈りを捧げています。興味深いことに、エレミヤの預言を読んで帰還が間近であることを知ったダニエルも、9章でとても長い祈りをささげ、罪を告白し、悔い改めています。

私たちが罪の告白と、悔い改めに時間をかけているかが、問われます。主は、罪を告白する者に対して全ての罪を赦してください。しかし、その約束を歪曲して、「ごめんなさい」と言っておけば良いのだと考えたら間違いです。心からの悔い改め、つまり罪の重さをしっかりと心に留めて、主に申し上げるのです。すべての罪はキリストの上に置かれました。だから私たちはその罪を、神から罰せられるから、それが恐ろしくて悔いるのではなく、全ての罪をキリストの上に置かれたのに、なおのことそれを軽んじて罪を犯すという、神の心を傷つけたことを悲しむために悔いるのです。自分が傷つけられるのを恐れて悔い改めるのではなく、すでに神の心を傷つけたから悔い改めます。

初めにソロモンは、主が契約と愛を守られる方として、主をほめたたえています。確かにダビデに約束されたように、それを今日のように成し遂げたことをほめたたえています。そしてソロモンの祈りは、その「約束されたみことばが堅く立てられますように」と祈っています。このようにして、私たちは祈ります。神が約束されたのですから、それを行ってください、と言って祈ります。これが祈りの奉仕です。主が約束されたこと、ご計画されたことを、自分たちに行ってくださいと祈るのです。

恵比寿バイブルスタディで、学びの後に質問がありました。神の御心についての質問の中で出てきましたが、御心にそった祈りが聞かれることを話しました。そして「御心ならば、この人を救ってくださいと祈るのでしょうか？」そして私は答えました。「御心ならば、と祈るのではなく、それは御心なのです。その人が救われるのは御心なのです。神は、「イエス・キリストは、罪人を救うためにこの世に来られた。(1テモテ 1:15)」と言われたのです。だから、「この人を救ってください。あなたは、「イエス・キリストは、罪人を救うためにこの世に来られた。」と言われました。」と祈ればよいのです。」と答えました。

6:18 それにしても、神ははたして人間とともに地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです。6:19 けれども、あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、主よ。あなたのしもべが御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。6:20 そして、この宮、すなわち、あなたが御名をそこに置くと仰せられたこの所に、昼も夜も御目を開いていてくださって、あなたのしもべがこの所に向かってささげる祈りを聞いてください。6:21 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたのお住まいになる所、天からこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。

天も、天の天も主をお入れすることはできないのに、なぜ宮を建てたのか？それは、ここにあるように祈るためです。物理的には主はどこにでもおられます。けれども、主はこの宮にご自分の名を置くと言われました。したがって、主の御名によって祈り、そしてその祈りが聞かれるという、神との交わりとここで持つことができます。「神と交わるのは、神はどこにでもいるから、教会に行かなくて構わないではないか。」とお思いでしょうか、いいえ、イエス様は言われました。「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。(マタイ 18:19-20)」

そしてその祈りは、罪の赦しを請う祈りです。ソロモンはモーセの律法を知っていました。モーセがイスラエルについて神の祝福を宣言しながら、彼らが背いたら呪いがあることを延々と宣言しました。祝福より、呪いの宣言が長いです。彼は、人は罪を犯す者であることを知っていました。そして何よりも、この場所は、父ダビデが人口調査の件で罪を犯し、その贖いのためのいけにえを捧げたところです。そしてこれは神の心です。アダムが罪を犯して、主はすぐに皮の衣を備えてくださいました。いけにえによって、罪から来る恥を覆うことを行ってくださいました。悔い改める者に決して赦しの手を主は緩めることはありません。

6:22 もし、ある人が隣人に罪を犯し、のろいの誓いを立てさせられることになって、この宮の中にあるあなたの祭壇の前に来て、誓うなら、6:23 あなたご自身が天からこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行なって、悪者にはその生き方への報いをその頭上に返し、正しい者にはその正しさにしたがって義を報ってください。

初めは、個人間の訴訟に関することです。人間にはどちらが不正を行ったのか分からない場合でも、この宮で誓うなら、その真相が明らかにされますように、ということです。教会でも、アナニヤとサツピラが、教会に持ってきた財産がこれがすべてと偽った時に、ペテロに聖霊の賜物が与えられて、彼らが嘘をついていることを見抜き、それで彼らはその場で打たれて死にました。

6:24 また、もし、あなたの民イスラエルが、あなたに罪を犯したため、敵に打ち負かされるようなとき、立ち返って御名をほめたたえ、この宮で、御前に祈り願うなら、6:25 あなたご自身が天からこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らとその先祖たちにお与えになった地に、彼らを帰らせてください。

敵に打ち負かされる時の場合です。興味深いことに、その悔い改めの表れが主を讃えることだとあります。主を讃えることは、主が裁かれることがあってもそれも正しいとすること、神が神であることを認めることに他なりません。

6:26 彼らがあなたに罪を犯したため、天が閉ざされ、雨が降らない場合、彼らがこの所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたの懲らしめによって、彼らとその罪から立ち返るなら、6:27 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦し、彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に、雨を降らせてください。6:28 もし、この地に、ききんが起こり、疫病や立ち枯れや、黒穂病、いなごや油虫が発生した場合、また、敵がこの地の町々を攻め困んだ場合、どんなわざわい、どんな病気の場合にも、6:29 だれでも、あなたの民イスラエルがおのおの自分の疫病と痛みを思い知らされて、この宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、どのような祈り、願いも、6:30 あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天から聞いて、赦し、ひとりひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心を知っておられます。あなただけが人の子らの心を知っておられるからです。6:31 それは、あなたが私たちの先祖に賜った地の上で彼らが生きながらえる間、いつも彼らがあなたを恐れて、あなたの道に歩むためです。

日照りやその他の自然災害です。そしてソロモンは、罪を赦してくださるだけでなく、彼らの生き方にしたがって報いてください、と祈っています。その心を知っているのは主だけなのだ、と言っています。私たちは、人が認めることのできる評価で報われるのではなく、心にある動機にしたがって報いを受けます。同じことをしていても、もし、それが人を恐れているであるとか、あるいは人に認められるためであるとか、主を愛することの動機以外のものは報いを受けません。

6:32 また、あなたの民イスラエルの者でない外国人についても、彼があなたの大いなる御名と、力強い御手と、伸べられた腕のゆえに、遠方の地から来て、この宮に来て祈るとき、6:33 あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天からこれを聞き、その外国人があなたに向かって願うことをすべてかなえてください。そうすれば、この地のすべての民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じように、あなたを恐れるようになり、私の建てたこの宮では、御名が呼び求められなくてはならないことを知る

ようになるでしょう。

ソロモンには、健全な異邦人に対する見方がありました。ユダヤ人の間では、神の宮はユダヤ人のもの、イスラエルの神はイスラエル人だけのものという考えが出てきましたが、ソロモンはアブラハムが召された時にすでにあつた、イスラエルの使命を知っていました。すべての民族を神が祝福されることです。したがって、外国人が来た時に、その祈りを主が聞かれることによって、この方がすべての民の神であることを証してください、と願っています。そしてイザヤ書 56 章 7 節に、「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。」とあります。ですから、神は宣教の神であり、これは新約だけでなく旧約時代から御心としておられたのです。

6:34 あなたの民が、敵に立ち向かい、あなたが遣わされる道に出て戦いに臨むとき、あなたの選ばれたこの町、私が御名のために建てた宮の方向に向かって、あなたに祈るなら、6:35 天から彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。

戦争をしている時、宮にいなくても、その宮に向かって祈るならばその祈りを聞き入れてください、と祈っています。そして最後の祈りです。

6:36 彼らがあなたに対して罪を犯したため・・罪を犯さない人間はひとりもないのですから・・あなたが彼らに対して怒り、彼らを敵に渡し、彼らが、遠くの地、あるいは近くの地に、捕虜として捕われていった場合、6:37 彼らが捕われていった地で、みずから反省して悔い改め、その捕囚の地で、あなたに願い、『私たちは罪を犯しました。悪を行なって、咎ある者となりました。』と言って、6:38 捕われていった捕囚の地で、心を尽くし、精神を尽くして、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖に与えられた彼らの地、あなたが選ばれたこの町、私が御名のために建てたこの宮のほうに向いて祈るなら、6:39 あなたの御住まいの所である天から、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの言い分を聞き入れ、あなたに対して罪を犯したあなたの民をお赦しください。

これが、最も悲惨な状態であり、約束の地から引き抜かれて外国の地で捕虜として生きることです。そこからの罪の赦しの祈りになります。ソロモンは、しっかりと人間観を持っています。「罪を犯さない人間はひとりもないのですから」であります。かつて、主はノアの時代に大洪水を起こされて、水を引かせた後も、ノアの捧げる全焼のいけにえを見て、「人の心の思い計ることは、初めから悪であるからだ。(創世 8:21)」初めから悪なのです。そして、パウロが詩篇にある言葉を引用します。「義人はいない。ひとりもない。(ローマ 3:10)」このことを、みなさんは認めているでしょうか？自分が罪ある人間であることを、認めているでしょうか？すべては、ここから始まります。罪があることを認めなければ、罪の赦しさえありません。

この祈りを捧げた人がいました。そう、ダニエルです。ダニエルは、エレミヤ書の預言を見て、間もなく捕囚の期間が終わることを悟りました。そうして、バビロンの地(その時は、メディヤの王になっていましたが)から彼は祈りを捧げたのです。ダニエル書 9 章に書かれています。「主よ。正義はあなたの

ものですが、不面目は私たちのもので、今日あるとおり、ユダの人々、エルサレムの住民のもの、また、あなたが追い散らされたあらゆる国々で、近く、あるいは遠くにいるすべてのイスラエル人のものです。これは、彼らがあなたに逆らった不信の罪のためです。主よ。不面目は、あなたに罪を犯した私たちと私たちの王たち、首長たち、および先祖たちのものです。あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。これは私たちが神にそむいたからです。(7-9 節)」この悔い改めの言葉が延々と続きます。ダニエルは、このソロモンの祈りを覚えて祈っていたのです。皆さんは、ダニエルは、書かれていることをそのまま行いました。聖書の書かれていることを、どれだけ、そのまま行えるか、これが霊的成長の鍵となります。

6:40 今、私の神よ。お願いします。どうか、この所でささげる祈りに目を開き、耳を傾けてください。

6:41 そこで今、神、主よ。あなたもあなたの御力の箱も立ち上がって、休み所におはいらください。神、主よ。あなたの祭司たちの身に救いをまわらせてください。あなたの聖徒たちにはいつくしみを喜ばせてください。6:42 神、主よ。あなたに油そそがれた者たちの顔を退けないでください。あなたのしもべダビデの忠実なわざの数々を思い起こしてください。」

まとめの祈りを捧げました。御力の箱が立ち上がって、休みの所に入るというのは、民数記でイスラエルの民が宿営から出ていくとき、そして再び宿営を張る時に祈った祈りです。この祈りをソロモンが捧げることによって、これからは神の箱は動くことなく、ずっとここに留まることを意味しています。そして、祭司たちの身に救いを、聖徒たちにはいつくしみを喜ばせてくださいと祈っています。私たちが神の救いを身につけているでしょうか？そして、神のいつくしみを喜んでいるでしょうか。さらに、油注がれた者たちから顔を退けないで、と祈っていますが、これは、ユダの王たちから顔を退けないでください、という祈りです。

2B 祈りの答え 7

1C 祝い 1-10

7:1 ソロモンが祈り終わると、火が天から下って来て、全焼のいけにえと、数々のいけにえとを焼き尽くした。そして、主の栄光がこの宮に満ちた。7:2 祭司たちは主の宮にはいることができなかった。主の栄光が主の宮に満ちたからである。7:3 イスラエル人はみな、火が下り、主の栄光がこの宮の上に現われたのを見て、ひざをかがめて顔を地面の敷石につけ、伏し拝んで、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」と主をほめたたえた。

かつて、シナイ山のふもとにモーセの幕屋があった時に、アロンとその息子たちの祭司の任職式、それから初めてのいけにえを捧げた時に、このように天からの火によっていけにえが焼き尽くされました。

7:4 それから、王と民はみな、主の前にいけにえをささげた。7:5 ソロモン王は牛二万二千頭と羊十二万頭のいけにえをささげた。こうして、王とすべての民は、神の宮を奉献した。7:6 祭司たちは、その務めに従って立ち、レビ人も、主の樂を奏する樂器を手にして立っていた。これは、ダビデ王が作ったものであり、ダビデが彼らの奏樂によって賛美したとき、「主の恵みはとこしえまで。」と主をほめた

たえるための楽器であった。また、祭司たちは、彼らの前でラツパを吹き鳴らしており、全イスラエルは起立していた。7:7 ソロモンは、主の神殿の前の庭の中央部を聖別し、そこで、全焼のいけにえと、和解のいけにえの脂肪とをささげた。ソロモンが作った青銅の祭壇では、全焼のいけにえと、穀物のささげ物と、脂肪とを受け入れることができなかつたからである。7:8 ソロモンは、このとき、彼とともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大集団といっしょに、七日間の祭りを行なった。7:9 彼らは第八日目にきよめの集会を開いた。七日間、祭壇の奉献を行ない、七日間、祭りを行なったからである。7:10 第七の月の二十三日に、彼は民をおのおのの天幕に帰した。彼らは主がダビデと、ソロモンと、その民イスラエルに下さった恵みを喜び、心楽しく帰って行った。

とてつもない、盛大な祝いです。その捧げられた、動物のいけにえの量が半端ではありません。主が、この宮をもってあらゆる罪を贖い、またすべての者たちの礼拝を受けることを表していました。そして時は第七月で仮庵の祭りです。その時と同じように、七日間、いけにえを捧げて、八日目にきよめの集会を行います。ダビデによって用意された楽器で、「主の恵みはとこしえまで。」の歌を歌っています。とこしえに主の恵みが続くことをほめたたえています。

ところで、私たちの主イエス様も、初めに来られた時に天からの祝いがありました。栄光の光が夜空を輝かせて、御使いの軍勢が現れて、神を賛美して言いました。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に平和が、御心にかなう人々にあるように。(ルカ 2:14)」神の国が地に臨み、平和が拡がることを御使いたちは告げました。そして、ソロモンの宮は再臨のキリストの栄光も表しています。仮庵の祭りは、ゼカリヤ書 14 章の最後に千年王国で守られることが書かれています。再臨のキリストに、多くの者たちがいけにえをささげます。それは罪が赦されるためのいけにえではなく、罪がキリストの血によって赦されたことを思いだし、お祝いするいけにえです。そしてみなで祝宴を開いて、神の国の開始を祝うのです。この盛大な神の御国に、私たちも入りたいですね！

2C 語りかけ 11-22

7:11 こうしてソロモンは、主の宮と、王宮とを建て終え、主の宮と自分の宮殿に対して実施しようとソロモンが思っていたすべてのことをみごとに実現した。7:12 すると、主が夜ソロモンに現われ、彼に仰せられた。「わたしはあなたの祈りを聞いた。また、わたしのために、この所をいけにえをささげる宮として選んだ。

ソロモンは実に、すべてのことを実現させました。その時に、夜に、主が語りかけてくださいました。とても大切ですね、すべてのことを成し遂げたその高揚のある時に、人は罪を犯しやすいです。高ぶりの罪です。けれども、主は優しくソロモンに語りかけ、親しく交わってくださいました。

7:13 もし、わたしが天を閉ざしたため雨が降らなくなった場合、また、いなごに命じてこの地を食い尽くさせた場合、また、もし、わたしの民に対して疫病を送った場合、7:14 わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。7:15 今や、わたしはこの所

でささげられる祈りに目を留め、耳を傾けよう。7:16 今、わたしは、とこしえまでもそこにわたしの名を置くためにこの宮を選んで聖別した。わたしの目とわたしの心は、いつもそこにある。

主がねんごろに、ソロモンに確かに祈りを聞くと答えてくださいました。

7:17 あなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことをすべてそのまま実行し、わたしのおきてと定めとを守るなら、7:18 わたしが、あなたの父ダビデに、『あなたには、イスラエルを支配する者となる人が絶えることはない。』と言って契約を結んだとおり、あなたの王座を確立しよう。7:19 しかし、もし、あなたがたがそむいて、あなたがたに授けたわたしのおきてとわたしの命令とを捨て去り、行ってほかの神々に仕え、これを拝むなら、7:20 わたしが彼らに与えた地から、彼らを根こぎにし、わたしがわたしの名のために聖別したこの宮をわたしの前から投げ捨て、これをすべての国々の民の間で、物笑いとし、なぶりものとする。7:21 かつては並びもなく高かったこの宮も、そのときには、そのそばを通り過ぎる者がみな、驚いて、『どういうわけで、主はこの地とこの宮とに、このような仕打ちをされたのだろう。』と言うであろう。7:22 すると人々は、『あの人たちは、エジプトの地から連れ出した彼らの父祖の神、主を捨てて、ほかの神々にたより、これを拝み、これに仕えた。そのために、主はこのすべてのわざわいをこの人たちに下されたのだ。』と言うようになる。』

これは、ソロモンがまだ、古い契約の中で生きていたことによる現実です。古い契約では、主の掟と命令を守るなら、その従順によって約束をかなえてくださいます。けれども、主に背くのなら、その不従順によってここに書かれているような災いが下ります。ソロモンの従順にかかっているのです。そして、列王記第一にはソロモンが晩年に主に背いたことが書き記されており、そして列王記第二の最後に、神殿が滅ぼされたことが書かれています。

このユダの国の破壊が接近していた時に預言活動を行ったのがエレミヤでした。主がエレミヤに、イスラエルとユダが古い契約を破った、ということを宣言しています。その呪いは確実でした。しかし、律法をもはや石の板ではなく、心に書き記すと約束してくださいました。イエス様が血を流してくださることによって、心の良心が清められて、そして御霊が注がれて洗われます。神が、私たちの不従順による呪いを、キリストにあってすべてご自分の中に受けてくださいました。だから、キリストにあって私たちには祝福のみ用意されています。この方のうちに留まっていれば、救いはとこしえに保障されているのです。

2A 国の統治 8-9

この礼拝体制の確立をもって、ソロモン王の統治は安定し、繁栄します。

1B 内政 8

8:1 ソロモンが主の宮と自分の宮殿を二十年かかって建て終わったとき、8:2 ソロモンは、フラムがソロモンに返した町々を建て直し、そこにイスラエル人を住ませた。8:3 ソロモンはハマテ・ツォバに出て

行き、これに打ち勝った。8:4 ついで、彼は荒野にタデモルを建て、倉庫の町々はすべて、これをハマテに建てた。8:5 さらに、彼は上ベテ・ホロンと下ベテ・ホロンを建てた。これは、城壁と門とかんぬきのある防備の町々であった。8:6 バアラテ、およびソロモンの所有のすべての倉庫の町々、戦車のためのすべての町々、騎兵のための町々、ソロモンがエルサレムや、レバノンや、すべての領地に建てたいと切に願っていたものすべてを彼は建設した。

ソロモンが神殿と宮殿の建設の他にも、彼は町の建立に熱い情熱を注いでいました。町々を建て直すことに時間を費やしました。フラムがソロモンに返した町々とありますが、これはガリラヤにある町々です。フラムが、これは大したことはない所だとして、ソロモンからの贈り物を拒みました。興味深いですね、そこが後にアッシリヤに踏み荒らされ、イザヤ書に「異邦人のガリラヤ」と呼ばれる、確かに不名誉な地方になりましたが、そこに光が、キリストが現れました。そして他の地域には倉庫の町々、また防備の町々も建てました。

8:7 イスラエルの出でないヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の生き残りの民全員、8:8 すなわち、イスラエル人が滅ぼし尽くさなかった人々の跡を継いでこの地に生き残った彼らの子孫に当たる人々を、ソロモンは苦役に徴用した。今日もそうである。8:9 しかし、ソロモンはイスラエル人を自分の仕事をさせる奴隷にはしなかった。彼らは戦士であり、彼の補佐官の長であり、戦車隊と騎兵隊の長であったからである。8:10 また、ソロモン王に属する者で、監督をする者の長は二百五十人であって、民を指揮していた。

ソロモンは注意深く、区分けをしています。徴用の苦役につかせているのは異邦人であり、イスラエル人たちを働かせるときは、彼らを長や監督にしています。共に治める者としています。イスラエル人はエジプトから出てきた自由人であり、奴隷になっては決していけないからです。終わりの日のイスラエルも、このように回復します。「国々の民は彼らを迎え、彼らの所に導き入れる。イスラエルの家は主の土地でこの異国人を奴隷、女奴隷として所有し、自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちをしいたげた者を支配するようになる。(イザヤ 14:2)」

そして、私たち教会もキリストと共に統治する者たちとなるのです。コリントにある教会で、教会で起こった争いを、世の中の裁判所で訴えていたので、このように言って戒めました。「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということ、知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。(1コリント 6:2-3)」私たちも、今、教会の中にある事柄をしっかりと管理し、主に仕えていくことが求められています。

8:11 ソロモンはパロの娘を、ダビデの町から彼女のために建てた家に連れて上った。「私の妻はイスラエルの王ダビデの家に住んではならない。主の箱を迎え入れた所は聖なる所だからである。」と彼が言ったからである。

興味深いことに、ソロモンは自分の妻も、異邦人としてイスラエルと区別していました。列王記には書いていませんが、彼女のために別に家建てたのは、彼女をダビデの町から、神の箱から引き離すためでした。

8:12 それから、ソロモンは、彼が玄関の前に建てた主の祭壇の上に、主のために全焼のいけにえをささげた。8:13 すなわち、モーセの命令どおりに、毎日の日課により、これをささげ、安息日ごとに、新月の祭りごとに、年三回の例祭、すなわち、種を入れないパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りごとに、これをささげた。8:14 彼はその父ダビデの定めに従い、祭司たちの組分けを定めてその務めにつかせ、レビ人もその任務につかせ、毎日の日課として、祭司たちの前で賛美と奉仕をさせた。門衛たちも、その組分けに従って、おのおのの門に立たせた。神の人ダビデの命令がこうだったからである。8:15 彼らは、王がすべてのことにつき、また宝物倉のことについて、祭司たちとレビ人たちに命じたことにそむかなかった。8:16 このように、ソロモンの工事は、主の宮の礎を据える日まで、また、その完成まで、すべてが整えられていた。主の宮は完全であった。

ソロモンは、神殿建設だけでなく、その後の日ごとの奉仕もしっかりと指導しました。ダビデが彼に命じた通りに、ダビデ自身が御霊に導かれたことですから、それは主の命令です。その通りに、祭司やレビ人が奉仕をするように言いつけました。

8:17 それから、ソロモンはエドムの地の海岸にあるエツヨン・ゲベルとエラテへ行った。8:18 フラムはそのしもべたちを通して、何隻かの船と海に詳しいしもべたちを彼のもとに送り届けた。彼らはソロモンのしもべたちといっしょにオフィルへ行き、そこから、金四百五十タラントを取って、これをソロモン王のもとに持って来た。

「エツヨン・ゲベルとエラテ」は、今のエイラットあるいはヨルダンのアカバのところにあった港町です。紅海のアカバ湾から貿易を行うことができます。そこからオフィル、おそらくアラビア半島の南端、イエメン辺りにあったと思われるが、そこから金を取ってきました。

2B 王たちの謁見 9

そしてその地域にあるシェバから、貿易のためにやってきたのがシェバの女王です。

1C シェバの女王 1-12

9:1 ときに、シェバの女王が、ソロモンの名声を伝え聞き、難問をもってソロモンをためそうとして、非常に大ぜいの有力者たちを率い、らくだにバルサム油と、多くの金および宝石を載せて、エルサレムにやって来た。彼女は、ソロモンのところに来ると、心にあるすべてのことを彼に質問した。

オフィルでの金の採掘を行ってから、シェバの女王はソロモンの名声を伝え聞きました。貿易のための国を挙げての旅ではありますが、その時にソロモンにこの世にあることの知恵を、自分が分からなか

ったことを質問しました。

9:2 ソロモンは、彼女のすべての質問を説き明かした。ソロモンがわからなくて、彼女に説き明かせなかったことは何一つなかった。9:3 シェバの女王は、ソロモンの知恵と、彼が建てた宮殿と、9:4 その食卓の料理、列席の家来たち従者たちが仕えている態度とその服装、彼の献酌官たちとその服装、主の宮に上る階段を見て、息も止まるばかりであった。9:5 彼女は王に言った。「私が国であなたの事績とあなたの知恵とについて聞き及んでおりましたことはほんとうでした。9:6 実は、私は、自分で来て、自分の目で見ると、彼らの言うことを信じなかったのですが、驚いたことに、私にはあなたの知恵の半分も知らされていなかったのです。あなたは、私の聞いていたうわさを上回る方でした。9:7 なんとしあわせなことでしょう。あなたにつく人たちは、なんとしあわせなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことのできるこの、あなたの家来たちは。9:8 あなたを喜ばれ、その王座にあなたを着かせて、あなたの神、主のために王とされたあなたの神、主はほむべきかな。あなたの神はイスラエルを愛して、これをとこしえにゆるがぬものとされたので、彼らの上にあなたを王として与え、公正と正義とを行なわせられるのです。」

シェバの女王は、ソロモンに仕えている人々のことをほめたたえ、そして最後に主ご自身をほめたたえています。彼女は、ソロモンに与えておられる主ご自身の証しに反応しているのです。未信者が求道者になり、そして求道者が、真理を見出す発見者になる過程です。そして、これは主ご自身の意図でした。かつて主はモーセを通してこう言われていました。「地上のすべての国々の民は、あなたに主の名がつけられているのを見て、あなたを恐れよう。(申命 28:10)」

イエス様がシェバの女王について言及されている箇所があります。「南の女王が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。(マタイ 12:42)」これは、パリサイ派と律法学者が、「天からのしるしを見せてもらいたい」と言ったことに対する応答です。彼らの深刻な問題は、イエス様が数多くのしるしを既に見せておられたのに、その目の前にある証拠を見ようとしなかったことにあります。

その反面、異邦人で悔い改めた者がいます。ニネベの人たちがいますが、ヨナの説教で悔い改めました。わずか、「四十日でこの町は滅ぼされる」という言葉によって彼らは悔い改めたのです。そしてシェバの女王の場合は、はるか遠くで起こっていることを聞きつけて、はるばるやって来てその知恵を聞こうとしたことです。これだけ熱心に真理を求めていました。ましてや、ソロモンよりもすぐれたイエス様ご自身がおられるのですから、彼らはそれらの証拠を見ないという、究極の怠慢に陥っていた、ということでもあります。

このようにして、数多くの方が食べず嫌いをしています。つまり、真理を探そうとしない、目の前にあるのに、見もしないという過ちを犯しています。まことしやかに、聖書を批評している人たちのどれだけの人たちが、実際に聖書を読んでいるかと言いますと、ほとんどいないでしょう。私はかつて、実家で

両親の知人で、私たちの信仰を批判している人に会いました。彼はこう言うのです。「キリスト教会が作りあげたイエスは信じない。歴史のイエスを知りたいのだ。」そこで私は問いました。「歴史のイエスを知りたいのですか？ならば、歴史の第一資料を見ましょう。イエスについての歴史的な第一資料は、もちろん新約聖書ですよ？読まれたことありますか？」そうしたら、読んだことがないのです！そこで、「では開いて、今、いっしょに読んでみましょう。」とても嫌がっていました。

このような人もいれば、わずかな情報しか与えられていないのに、食らいつくようにして自分で調べ、そして確かにこれは真理であると知り、信じるに至った人々もいます。私たちはどちらでしょうか？シェバのような真摯な求道をしてみましょう。

9:9 彼女は百二十タラントの金と、非常に多量のバルサム油と宝石とを王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったこのバルサム油のようなものはなかった。9:10 オフィルから金を運んで来たフラムのしもべたちと、ソロモンのしもべたちも、びやくだんの木材と宝石とを運んで来た。9:11 王はこのびやくだんの木材で、主の宮と王宮への大路を造り、歌うたいたちのために、立琴と十弦の琴を作った。このようなものは、これまで、ユダの地でだれも見ることがなかった。9:12 ソロモン王は、シェバの女王に、彼女が王のもとに携えて来た品物以外のもので、彼女が求めた物は何でもその望みのままに与えた。彼女は、家来たちを連れて、自分の国へ戻って行った。

シェバの女王とソロモンとの贈り物交換です。オフィルからのフラムの僕たちの存在がいっしょに書かれているということは、もしかしたらオフィルの船団と共にシェバの女王の一行がやってきたのかもしれない。

2C 富と知恵 13-31

9:13 一年間にソロモンのところには行って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。9:14 このほかに、交易商人や仕入れ商人たちが携えて来たものがあり、また、アラビヤのすべての王たち、およびその地の総督たちも、ソロモンのもとに金銀を携えて来た。9:15 ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一個に六百シェケルの延べ金を使った。9:16 また、延べ金で盾三百を作り、その盾一個に三百シェケルの金を使った。王はそれらを、レバノンの森の宮殿に置いた。9:17 王は大きな象牙の王座を作り、これに純金をかぶせた。9:18 その王座には六つの段があり、その王座には金の足台が取り付けられており、座席の両側にはひじかけがあり、そのひじかけのわきには二頭の雄獅子が立っていた。9:19 また、十二頭の雄獅子が、六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたためしかなかった。9:20 ソロモン王が飲み物に用いる器はみな金であった。レバノンの森の宮殿にあった器物もすべて純金であった。銀はソロモンの時代には、価値あるものとはみなされていなかった。9:21 王は、フラムのしもべたちを乗せてタルシシュへ行く船を持っており、三年に一度、タルシシュの船が金、銀、象牙、さる、くじゃくを運んで来たからである。

とてつもない量の金によって、この国が文字通り黄金を極めたことを物語っています。そしてオフィルからの金は南からですが、その他、タルシシュへの船をも持っていました。これは西、スペイン地方

に行く船です。そしてそこからここに書いてある金銀、また象牙、さる、くじゃくまでを運んできていました。イスラエルでは、ガリラヤ地方に行きますと、一般の家屋にくじゃくが顔を出してきますが、この時に持ち込まれたものなののでしょうか？そして次に、諸国の王たちが謁見をしに来ることが書かれています。

9:22 ソロモン王は、富と知恵とにおいて、地上のどの王よりもまさっていた。9:23 地上のすべての王は、神が彼の心に授けられた知恵を聞こうとして、ソロモンに謁見を求めた。9:24 彼らはおのこの贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、騾馬などを、毎年きまって携えて来た。9:25 ソロモンは四千の馬屋と戦車、および騎兵一万二千を持っていた。彼はこれらを戦車の町々に配置し、またエルサレムの王のもとにも置いた。9:26 彼は大河からペリシテ人の地、さらには、エジプトの国境に至るすべての王を支配していた。9:27 王は銀をエルサレムで石のように用い、杉の木を低地のいちじく桑の木のように大量に用いた。9:28 人々は馬をエジプトや諸国からソロモンのもとに運んで来た。

神がソロモンに与えられた知恵によって、王たちが謁見に来て、そして贈り物をするので富が集まりました。イエス様が幼子の時に、東方からの賢者が黄金、乳香、没薬の贈り物を持ってきましたが、イエス様が再び来られ、エルサレムで君臨される時は、そのまま諸国の民が多くの贈り物をエルサレムも持ってきます。

もちろん、私たちはすでに、ソロモンがここで妥協をしていることを学びました。馬を増やしている姿は、主が行ってはいけないと戒められていたものです。前回の学びの後の分かち合いに出てきましたが、ソロモンに富を与えられたのは神ご自身です。けれども、ソロモンが神ご自身以上に、神の与えられた富と力を求めるようになりました。私たちにも罫があります。主を求め、主が与えられたものを、自分のものにしようとする罫です。祝福を与える主ではなく、祝福を求める姿です。

9:29 そのほか、ソロモンの業績、それは最初から最後まで、預言者ナタンの言行録、シロ人アヒヤの預言、および、先見者イドが見たネバテの子ヤロブアムについての幻の記録に示されているではないか。9:30 ソロモンはエルサレムで、四十年の間、全イスラエルの王であった。9:31 ソロモンは彼の先祖たちとともに眠り、人々は彼をその父ダビデの町に葬った。彼の子レハブアムが代わって王となった。

ソロモンの業績が終わり、次はレハブアムですが、彼によってすでにこの富が敵に取られていきます。黄金時代はソロモンの代で終わってしまうのです。ここに私たちはチャレンジを受けます。御霊によって導かれれば、主が働いてくださいます。けれども、御霊に留まりつづけることは難しいのです。祝福されているから、何か別のこと、また新しいことをしようとします。いいえ、ただ主にお仕えすればよいのに、それ以上のことをしようとします。肉で完成しようとするのです。主の救いにきちんと留まっていましょう。